

## 5月度の観察記録

カテゴリ : 2013年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2013-5-12

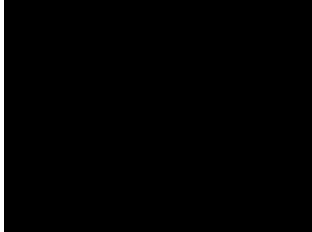
2013年5月度の観察記録です。

```
Untitled Page  var gaJsHost = (("https:" == document.location.protocol) ?  
"https://ssl." : "http://www."); document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost +  
"google-analytics.com/ga.js' type='text/javascript'%3E%3C/script%3E"));  var pageTracker  
= _gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData();  
pageTracker._trackPageview();
```

初夏を思わせる快晴でした。新緑も濃くなり、私にとっても花粉症がほぼ収束し、すがすがしい季節到来でした。新池のほとんどの水面は、スイレン（睡蓮、スイレン科）にまた覆われていました。そのため、新池を南側から見たとき、水鳥は来ていないと思いましたが、北側の岸にアオサギ（青鷺、サギ科）と直ぐ横のわずかに残った水面にカイツブリ（鳩、カイツブリ科）が各1羽いました。両者とも独特の鳴き声を出していました。ツバメ（燕、ツバメ科）とムクドリ（椋鳥、ウクドリ科）も、先月と同じように水面上を飛び交っていました。土手のハリエンジュ（針槐、マメ科）は、白い花弁を地面にたくさん落としていました。街路樹のトウカエデ（唐楓、カエデ科）は新緑にすっかり覆われ大変きれいでした。参加者は子供7名と大人28名でした。

集合場所で、できあがったばかりの昨年度の観察会の本が披露されました。表紙の各月ごとの写真が何かということが紹介されました。次に、先月の報告を皆で見ました。関連して、持ち帰ったナガサキアゲハ（長崎揚羽、アゲハチョウ科）のさなぎが羽化に失敗したという報告がまずありました。ハチなどに寄生されていることが多いそうです。里山の家屋根の芝生の中のカラスノエンドウ（烏豌豆、マメ科）は枯れ始めていましたが、どうしてこんなにカラスノエンドウだけが繁茂したのかという疑問がでました。風で種が飛ばされてきたという人と、クロジ（黒鷲、ホオジロ科）やスズメ（雀、スズメ科）が、カラスノエンドウの実を運んで来たのではないかという人もいました。なお、よく見ると、今月は屋根の上の方で別の野草が生え始めていました。





ハリエンジュの花 死んだナガサキアゲハのさなぎ 枯れ始めた屋根のカラスノエンドウ 報告  
の中のツチイナゴ（土蝗または土稲子，イナゴ科）をトノサマバッタ（殿様飛蝗，イナゴ科）と見  
分けるのは，目の周辺の 模様から「涙目のツチイナゴ」というように覚えればよいという話が出ま  
した．先月見た花瓶に入れたサツマイモ（薩摩芋，ヒルガオ科）をまた見ま した．水し か代えて  
いないそうですが，花瓶の中では根が伸びて絡み合っていました．芽を摘んで，複数伸びてくる蔓  
を植えるとよいという意見が出ました． 水槽に入れた後足の出始めたオタマジャクシを観察しまし  
た．歌では「やがて手が出る足が出る」と歌われますが，実際は逆で，ごろが悪いのでこのよう  
になっ ているという説明がありました．

このとき周辺でウグイス（鶯，ウグイツ科）の鳴き声がしました．「ホーホケキョ」が接近する他  
の鳥に対する縄張り宣言をしてメスを誘っており，「ケキョケ キョケキョ」が侵入した者への威嚇  
であるとされているようです． [【外部リンク】ウグイス初鳴き前線（四季の自然学習室）](#)



#### サツマイモの水耕栽培

10時近くになり、里山の家を出発してオタマジャクシ池北の元畑に行きました。クワ（桑，クワ科）のまだ緑色の実をまず観察しました。とても食べられる状態ではありませんでした。誰かが植えたアヤメ（菖蒲，アヤメ科）がきれいな紫色の花を咲かせていました。花弁の綾目模様を確認しました。また、ゴボウ（牛蒡，キク科）の大きな葉を観察しました。奥のミモザ（Mimosa，マメ科）が白っぽい花を付けているように見えたが、実際に近寄ると花ではなく実でした。実の鞘は表が紫がかった白っぽい色で、裏は緑色で、鞘の表の色が花のように見えたことが分かりました。





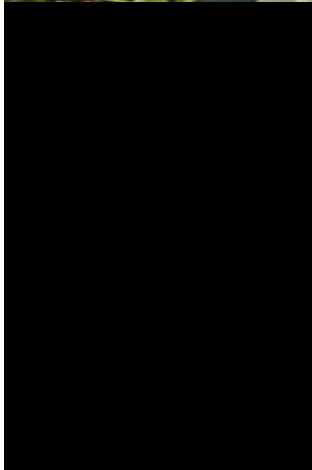
クワの実 アヤメの花 ゴボウ ミモザの実の表裏

網でヤマトシジミ（大和小灰，シジミチョウ科）とツバメシジミ（燕小灰，シジミチョウ科）を捕獲して，瓶に入れて観察しました．ここで，カナヘビ（金蛇，カナヘビ科）を2匹捕まえ，虫かごに入れて観察しました．大きめのクモも一緒に入れたら，カナヘビの頭より大きなクモをばくりとくわえました．結局，食べきれずに放してしまいましたが，動く物は何でも食べるようです．後で入れた小さなクモは一飲みで食べられてしまい，子供達がびっくりしていました．

ツチイナゴもここで捕まえました．トンボも捕獲しましたが，種類が分からず，図鑑と照らし合わせて，複眼の緑色と胴体の黄色い横縞で，多分シオカラトンボ（塩辛蜻蛉，トンボ科）のメスだろうということになりました．シロテンハナムグリ（白点花潜，コガネムシ科）も草の上を這っているを見つけました．ユズ（柚子，ミカン科）の木に白い花のつぼみがたくさん付いていました．東の外れにカスマグサ（かす間草，マメ科），スズメノエンドウ（雀豌豆，マメ科）およ びカラス

ノエンドウ（烏豌豆，マメ科）が群生して実を付けているのを見つけて写真に撮りました．豆果の中の種の数で種類を見分けますが，カスマグサは4個，スズメノエンドウは2個，カラスノエンドウは5～10個と普通言われています．

[【外部リンク】カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ（見頃の花 岡山県自然保護センター）](#)



クモをくわえたカナヘビ ユズの花

大坂池の土手へ行き，ウメモドキ（梅擬，モチノキ科）についたクワトゲエダシャク（桑棘枝尺，シャクガ科）の緑色の幼虫を観察しました．終齢に近いのか，丸まってじっとしていました．クワの害虫で愛知県の絶滅危惧種になっているそうですが，最近はおちこちで見かけるそうです．アオスジアゲハ（青条揚羽，アゲハチョウ科）をつかまえて，容器に入れて子供達が観察しまし

た．細長い4 cm長ほどのチャエダシヤク（茶枝尺，シヤクガ 科）の幼虫を見つけて，足の数が10本であることを確認しました． 11時になっても，里山の家から100mも離れておらず，急いで進むことにしました．途中で5～6mm大のオオワラジカイガラムシ（大草鞋介殻虫，ワタフキカイガラムシ科）のメスを見つけて観察しました．メスとオスの形態は全く違い，メスは飛べないようです．



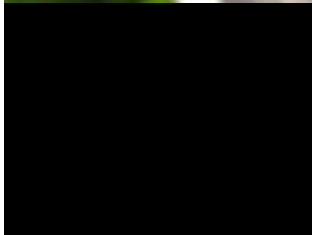


クワトゲエダシャクの幼虫 アオスジアゲハ チャエダシャクの幼虫 オオワラジカイガラムシ  
ピンク色の花の咲いたモチツツジ（餅躑躅，ツツジ科）にホ ウネンタワラチビアメバチ（豊年俵  
禿飴蜂，ヒメバチ科）のさなぎがぶら下がっていました。寄生して食べた幼虫の殻の下にぶら下が  
っていました。木柵の周辺で群生しているヤブヘビイチゴ（藪蛇莓，バラ科）の赤い実と黄色い  
花を観察しました。普通のヘビイチゴ（蛇莓，バラ科）に比べて実の表面に光沢がありました。

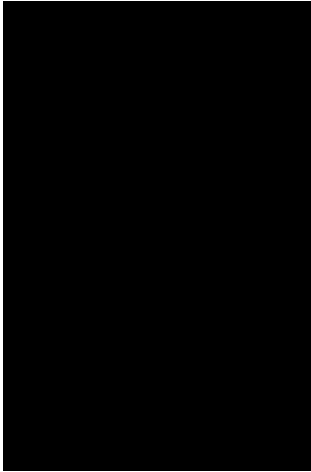




ホウネンタワラチビアメバチのさなぎ ヤブヘビイチゴ アベマキ（阿部榎，ブナ科）の林の樹上からセンダイムシクイ（仙台虫喰，ウグイス科）の鳴き声が聞こえました。図鑑には「ショーチュー イッパイ ギイ」という聞きなしが書いてありました。植樹された幼木のアベマキの葉がなくなるほど喰われていました。葉を調べると幼虫が繭を作ろうとしていました。このとき、上空の上昇気流に乗ったタカを発見しました。羽ばたきを全くせず上昇気流にのってらせん状に上空に昇っていきました。多分、オオタカ（大鷹，タカ科）でしたが、急いで双眼鏡を出して見ても小さすぎてハイタカ（杯鷹，タカ科）との区別が付きませんでした。日陰を探して、背の高いキリ（桐，ゴマノハグサ科）とマルバヤナギ（円葉柳，ヤナギ科）とシンジュ（神樹，ニガキ科）が集まっている所に行きました。樹木の下にはキリの紫色の花がたくさん落ちていました。ここで、ヒロオビトンボエダシャク（広帯蜻蛉枝尺蛾，シャクガ科）の幼虫や脱皮中のカナヘビを観察しました。カナヘビの頭と胴体の一部に古い皮がついており、カナヘビを卵から飼育した経験のある参加者の親子から、どのように脱皮するかの説明がありました。



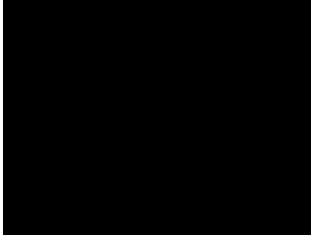




#### ヒロオビトンボエダシャクの幼虫

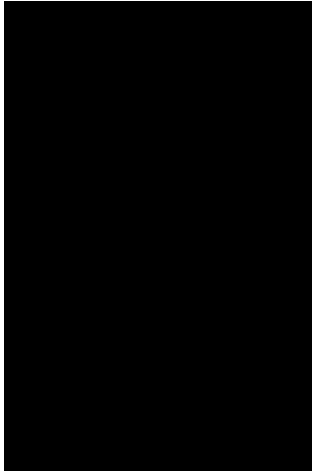
水路（せせらぎ）からトビケラ（飛蝻蛄，トビケラ目）の幼虫を捕ってきてペットボトルに入れて観察しました。湿地近くの樹木で、オオシマカラスヨトウ（大 縞鴉夜盗，ヤガ科）の幼虫も見つけました。湿地では、カ キツバタ（杜若，アヤメ科）が紫色の花をたくさん咲かせていました。アヤメと花の形は似ていますが、綾目模様がないことを確認しました。水路の近くでは、キショ ウブ（黄菖蒲，アヤメ科）も黄色い花を 咲かせて いました。





オオシマカラスヨトウの幼虫 カキツバタ キショウブ 湿地の山際のサワフタギ（沢蓋木，ハイノキ科）にたくさんのシロシタホタルガ（白下蛍蛾，マダラガ科）の幼虫がいました．サワフタギの葉をすべて食べつくしてしまうのではという感想ができました．水田の山側のミヤマヨメナ（深山嫁菜，キク科）の群生地で薄紫色の花を観察しました．ここで子供の姉弟が大きな声で何度も「お腹減った」と叫びました．すでに11:50になっていました．子供達の母親がはらはらとしていました．急いで里山の家に戻りました．途中のスモモ池には，ダイサギ（大鷲，サギ科）とコガモ（小鴨，カモ科）が各1羽来ていました．





シロシタホタルガの幼虫 スモモ池のダイサギ 感想会は里山の家倉庫のたたきで行いました。子供達は、黙ってゆで卵などを大きな口をあけて食べていました。感想としてカナヘビの脱皮が見られてよかったということなどが出ました。紙芝居を持ってきた女性の参加者がいました。「はじめまして」という題目で、アゲハチョウの幼虫とオタマジャクシの、そして それらが大きくなったカエルとアゲハチョウの交友の話で、出合った最初に「はじめまして」と言う内容でした。子供たちは目を輝かせて見ていました。多くの 虫たちやその幼虫を観察できた楽しい観察会になりました。

観察項目： ナガサキアゲハのさなぎ殻，サツマイモ，後足の出はじめたオタマジャクシ，ウグイスの鳴き声，クワ，アヤメ，ミモザの鞘，ゴボウ，カナヘビ，ヤマトシジミ，ツバメシジミ，ツチイナゴ，メスのシオカラトンボ，シロテンハナムグリ，ユズの花，カスマグサ，スズメノエンドウ，カラスノエンドウ，ウメモドキ，クワトゲエダシャクの幼虫，アオスジアゲハ，オオワラジカイガラムシ，モチツツジ，ハウネンタワラチビアメバチのさなぎ，ヤブヘビイチゴ，センダイムシクイの声，キリの花，タカ，チャエダシャクの幼虫，ヒロオビトンボエダシャクの幼虫，トビケラ，オオシマカラスヨトウの幼虫，キショウブ，シロシタホタルガの幼虫，サワフタギ，ミヤマヨメナ，カキツバタ，ゴマダラチョウ，ダイサギ，コガモ。

文・写真：伊藤義人 監修：滝川正子